

なぜ英語が
聞き取れないのか



リスニング理論

簡単な英語がなぜ聞き取れないのか？

みなさんは、こんな経験されたことがないでしょうか？
TOEIC のリスニングの問題を解答した後で、スクリプトを見ながら答え合わせをしてみると、

「なんだ、こんな簡単な英文だったのか」
「問題を解いている時には聞こえなかったのに…」

と感じた経験です。

TOEIC のリスニングに登場するのは、決して難しい英文ではありません。リーディングに比べても単語、構文、ともにやさしい英語です。リスニングセクションでは難関と言われている Part 3、Part 4でさえも、スクリプトを読めばなんとなく意味は分かるのではないのでしょうか。

「でも、音声で聞くと分からない！」

私自身が本格的に英語再学習を始めた時がまさにそんな状態でした。

「悔しい！ こんな簡単な英語も聞き取れないなんて…」

そして、こんな疑問が浮かんできました。

(なぜ聞こえないのだろう？)
(そもそも英語が聞こえるってどういうことなのか？)
(どうしたら聞こえるようになるのだろう？)

本章では、これらの疑問の答えを見つけるために、試行錯誤を繰り返しながら最適な学習方法を模索してきた私の履歴をご紹介します。英語が聞こえるようになるには、大きく分けて4つの段階がある、というのが私の考えです。それぞれの段階でなぜ英語が聞き取れないのかが分かれば、ご自身にとって効果的なトレーニング方法が見えてくるはずです。

第1段階

- ▶ スクリプトを読んでも分からない
- ▶ 音が聞こえない

この段階では、当然英語はまったく聞き取れません。読んでも分からないのですから、聞けるはずがありません。外国語としての英語を小学校や中学校で初めて学び始めた状態です。ただ、この本を手にとっていらっしゃる多くの方は、既に学校で何年間か英語を一通り勉強してきていますから、TOEIC に出てくる英語がまったく読めないという方は少ないのではないかと思います。

第2段階

- ▶ スクリプトは読めば分かる
- ▶ 音が聞こえない

大学や、社会人で英語再学習を始めた人のほとんどの方が、この段階なのではないのでしょうか。すでに書いたとおり、

TOEIC のリスニングで使われている英語は比較的やさしい英語です。とりわけ、Part 2の前半に登場するのは以下のようなやさしい英語です。

01 Where are you going on your trip?

旅行でどこへ行きますか？

すべて中学校で習った単語ですし、疑問文にはなっていませんが構文も分かりやすいので、読めば意味は分かるのではないのでしょうか。

でもスクリプトを見ないで、音だけを頼りにこの英語を理解するのは決してやさしくありません。音の誤解や、連音という現象が起こっているからです。詳しくは第2章で説明します。

複雑なことはシンプルにして考える

私の英語再学習のスタートはこの第2段階からでした。この段階で私が考えたのは、

(英語が理解できないのは、音が聞こえないのが原因に違いない。だったら、音を聞こえるトレーニングをひたすらすれば、英語が理解できるようになるはず…)

ということです。もちろん、この時点でも、英語を聞き取るということがそんなに単純なことではなくもっと複雑なしくみが組み合わさっているのだらうな、とは思っていました。でも、複雑なことを複雑なまま、曖昧にしているのは、どこからどうやって手を付けたらいいのか分かりません。

そこで、英語が聞こえ理解できる、ということをお自分なりに思い切りシンプルに表現してみたのが以下のイメージです。

読めば意味が分かる

⇒ (音が聞こえる) ⇒ 聞いた英語が理解できる

① 読めば意味が分かる

Where are you going
on your trip?



② 音が聞こえる



③ 聞いた英語が
理解できる



これが正しければ、自分が聞こえていない音が聞こえるようになりさえすれば、英語が理解できるようになるはずですよ。

そこで、私は、まず、英語の音が聞こえるようになるために、ひたすら英語の音を聞くようにしました。毎日、通勤電車の中で、CNN、BBCなどの英語のニュースを聞き続けました。シャワーを浴びるように英語を聞き続けていれば、ある日突然、英語を聞き取れる耳ができて上がり、英語がスッキリと聞こえる日がくるのを信じていました。

ディクテーション



しかし、効果はあまりありませんでした。当時の私の英語力に対して、CNN、BBCなどの英語のニュースは難しすぎたのかもしれない。しかし、そう思って、代わりにVOAやCNN Student Newsなどのやさしめの英語素材に変えても効果は感じられませんでした。

聞こえないというよりも、英語が耳から反対側の耳へと抜けていくような、そんな感覚だったのです。**シャワーのように英語を聞いても、シャワーのように流れ去ってってしまう**のです。

そこで、次に「音を聞き取る」ためにディクテーションというトレーニングを取り入れてみました。ディクテーションとは、英語を聞きながら一字一句を正確に書きとっていくトレーニングです。聞き取れない箇所は、繰り返し聞いても構いません。ただし、スクリプトは最後まで見ないようにするのが原則です。

やってみると、これがものすごく負荷の高いトレーニングであることが分かります。そして、聞き取れなかった部分は空白になっていくので、いかに自分は英語の音が聞き取れていないのかを痛感させられます。また、スクリプトを見ながら音声を聞いての答えあわせの段階でも、聞き取れない音がたくさんでできます。音声を何度聞き直しても聞こえない音もあります。そうすると、ネガティブなことを考えが顔を出し、勉強法に迷いが出てきます。

(自分の耳は英語の音には向いていないのかも…)
(他に、もっとやるべきことがあるのかも…)

でも、そういう時こそ、自分が何のために、何をやっているのかを見つめ直すことが大切です。

読めば意味が分かる

⇒ (音が聞こえる) ⇒ 聞いた英語が理解できる

「英語が理解できるようになるには、あとは、音さえ聞こえるようになればいいはず。であれば、どんなにきつくてもディクテーションをやるしかない」

「こんな負荷の高いトレーニングを継続することができたら、絶対に英語が聞き取れるようになる」

という期待を持って毎日毎日、英文の量を決めてひたすらディクテーションを続けてみました。

ディクテーションをすることの副次的な効果として、文法力の強化があげられます。例えば、ディクテーションで書きとった英文が以下であったとしましょう。

I worked for a long time.

でも、“I”の後ろに、かすかに何か言っているように聞こえていますが、繰り返し聞いても良く聞こえません。

I () worked for a long time.

そこで、ここは文法力を使って、for a long timeは一定の期間を表しているので、動詞は過去形ではなくて、現在完了形になるのではと考えてみます。すると以下のような英

文を完成させることができます。

I've worked for a long time.

これはまさに、空所穴埋め問題なので Part 5や Part 6のスコアアップにもつながります。

🚗 第3段階

ディクテーションをコツコツと毎日続けることで、英語の音に慣れてきたので Part 3、Part 4の問題を解いてみると以前よりは聞き取れるようになり、正解率も上がりました。それでも、やはりまだスッキリと聞こえるレベルにはならなかったのです。

Part 3の会話は、10センテンス前後の英文で構成されています。その全部がスッキリと聞こえないのではなく、そのうちのいくつかの英文がモヤモヤとした状態でした。言い方を変えると、単語レベルでは聞こえていて、単語の意味も知っているはずなのですが、モヤモヤとしていたのは文としてまとまった意味が分からなかったからです。

読めば分かる、音が聞こえるようになれば英語は聞き取れるようになるだろうという当初の私の仮説は間違っていたことになります。

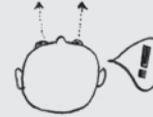
間違い

読めば意味が分かる

⇒ (音が聞こえる) ⇒ 聞いた英語が理解できる

① 読めば意味が分かる

Where are you going
on your trip?



② 音が聞こえる

Where are you
going on your
trip?



③ 聞いた英語が
理解できる



そして、この段階で私のリスニングスコアはピクリとも動かなくなりました。ディクテーションの素材を変えてみたり、問題をたくさん解いてみたりもしましたが効果はありませんでした。

この段階、第3段階は以下のような状態です。

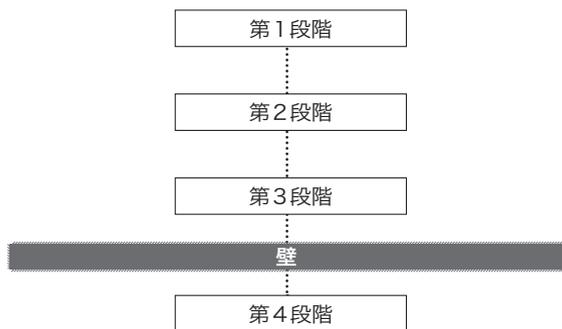
- ▶ スクリプトは読めば分かる
- ▶ 音も聞こえる
- ▶ それでも、内容がスッキリと分からない

🚗 第4段階

この段階に来て再び、なぜ英語が聞こえても理解できないのかが分からなくなったので、どうすればいいのかも分からなくなりました。ただ、どういうレベルになればいいのかが分かっていました。それが第4段階です。

- ▶ スクリプトを読めば分かる
- ▶ 音が聞こえる
- ▶ スッキリと英語の意味が理解できる

第3段階と第4段階の間には、これまでの段階とは違った、そして大きな壁がありそうです。



この第3段階と第4段階の間にある、大きな見えない壁は何なのか？ その正体を突き止め、その壁を乗り越えるためのトレーニングを継続すれば、今度こそ英語がスッキリと聞き取り意味が理解できるようになるはずです。そしてそれこそが、Part 3、Part 4を攻略するためのカギになると思っていました。

英語が伝わるということ

壁の正体を突き止めるために、そもそも、英語が伝わるということはどういうことなのかを考えてみることから始めてみました。英語に限らず言葉が伝わるとはどういうことなのか、ということです。

話し手の頭の中には、聞き手に伝えたいと思う気持ちや、情報があります。話し手は、それらを口を動かすことによって言葉に変えています。その言葉をまずは聞き手の耳が聞き取って、聞き手の頭で意味を理解するのは間違いないでしょう。面と向かって会話をする場合には、話し手は身ぶり手ぶりを交えて話し、聞き手はそれを目で見ながら聞いています。

こうしてみただけでも言葉が伝わるというのはかなり複雑なしくみであることが分かります。ただ、ここでは複雑なことを一旦シンプルに以下のように表してみました。

話し手の心 ⇒ (英語) ⇒ 聞き手の心

英語が伝わる、ということについて調べていた頃に以下のような本に出会いました。

“言葉は心から生まれ、心に返るのである”

『言語の脳科学』(酒井邦嘉) P.272より引用

“心と連動しなければ生きた英語は話せません。

本書で身につけた文法は「心から・キモチを乗せながら」使いこなすことができます”

『ハートで感じる英文法』(大西泰斗) P.8より引用

なるほど、やっぱり英語が聞こえるには、言葉が心から心(キモチ)に届いていることが必要なんだな、ということが分かりました。

英語が伝わるとは、キモチがキモチに届くこと

話し手の心 ⇒ (英語) ⇒ 聞き手の心

この流れを、分かりやすい具体例で説明してみます。

「パート5が難しかったです!」

TOEIC 公開テストを受けた後、会場近くのマクドナルドで待ち合わせた友人 K さんの第一声です。

Kさんの心の中には、「Part 5が難しかった」と言うキモチがあります。そして、それを私に伝えたいというキモチがあるからこそ、そのキモチを言葉に換えて、

「パート5が難しかったです!」

と口を動かします。すると、それが空気の振動になって私のところまで届き、私の耳が音を聞き取り、頭の中で意味を理解し、友人のキモチを理解することができるのです。

(うん、たしかに難しかったなあ)

もちろん、私はこれを無意識のうちに行っています。音が聞こえた、意味が分かった、キモチが理解できた、など

と順を追って意識的に理解したりはしていません。言い方を変えると、私は「Part 5が難しかった」という友人の日本語を理解したというよりは、日本語を介して友人のキモチを理解した、というべきでしょう。

これが、英語の会話だったとしたら、

“Part 5 was difficult!”

という英語を介して私は友人のキモチを理解しているはずですが、これが、英語が聞き取れて理解できたという状態です。

なぜ英語が聞き取れないのか?

では、反対に英語が理解できない状態というのはどのような状態なのでしょう。

話し手の心 ⇒ (英語) ⇒ 聞き手の心

この流れのどこかが途切れているからからだと考えられます。「特急列車」に例えて言えば、線路のどこかが不通になっていて、目的地に到着しない状態です。それはどこなのでしょう?



TOEICテストの場合で考えてみると、話し手であるナレーターは正しい英語を話しています。つまり、特急列車は出発駅から出ているのは間違いないでしょう。また、テスト開始前に音声チェックが行われるので、音は受験生の耳まで届いています。すなわち、特急列車は目的駅のすぐ近くまでは来ているのです。

話し手の心 ⇒ (英語) ⇒

つまり、ここまでに通区間はあります。(たまにテスト中に音声か途切れた、誰かがクシャミをした、などの不測のトラブル時にはここで途切れてしまう場合があります)

問題はこの先にありそうです。聞き手の耳に英語が届いてから、キモチが理解するまでをこんな流れで表してみました。

⇒ (音) ⇒ (意味) ⇒ キモチ

これに、第3段階の状態を当てはめてみます。

第3段階

- ▶ 音が聞こえる
- ▶ 読めば意味は分かる
- ▶ でも、スッキリと理解できない

⇒ (音) ⇒ (意味) ⇒ **壁** ⇒ キモチ

言葉の意味とキモチの間に何か障害になって、英語が聞き取れない状態を表しています。というここでは、「壁」

と呼ぶことにします。

これは、この第3段階にいる人にとって、すべての英文が「壁」によって聞き取れないということではありません。ある人にとって、音と意味が分かれば聞き取れる英文もあれば、聞き取れない英文もあるという状態です。

02 Which country is she from?

彼女はどこの国の出身ですか？

これは、Part 2に出題される頻出の英文です。やさしい英文なので読めば意味が分かりますし、聞いてもスッキリと聞き取れ意味も分かります。つまり、この英文は壁を乗り越えることができているのです。

ところが、

02 Which country did Mary say she's from?

マリーは、どこの国出身だと言っていましたか？

この英文も、比較的やさしい単語しか使っていないので読めば意味が分かりますが、聞き取ろうとすると難しい英文になります。この英文の場合は、「壁」を乗り越えることができていません。

音も意味も分かる英文を繰り返し聞く

では、どうすれば「壁」を乗り越えることができるのか、どんなトレーニングが有効なのかを考えてみます。

⇒ (音) ⇒ (意味) ⇒ **壁** ⇒ キモチ

この流れを見る限り、**少なくとも音も意味も分かる英文を使ってトレーニングする必要がありそうです**。なぜなら、音、あるいは意味、あるいはその両方が分からない英文はキモチに届くどころか、その手前で止まってしまっているからです。

つまり、音も、意味も分かる英文を繰り返し聞いているうちに自然と「壁」を乗り越え、英語がキモチに届く、という状態を作り出せるトレーニングが理想です。

そしてそれこそが、オーバーラッピング、シャドーイング、音読を組み合わせたトレーニングです。音と意味の方からだけでなく、キモチの方からも「大きな穴」を空けます。「壁」をはさみ撃ちにするイメージです。